

第3回 神戸朝日ホール

昼あがり落語会

～ひろば・ちようば・そうば、襲名直前の90分～



桂ちようば

桂ひろば

桂そうば



2025年2月21日(金) 11:00～(開場10:30)

神戸朝日ホール

兵庫県神戸市中央区浪花町59

お問い合わせ:078-333-6540(10:00-17:00)

全席指定(税込)前売2,000円 / 当日2,200円 一般発売11月9日(土)10:00～

■ 神戸朝日ホール オンラインチケット(要事前登録)
<https://www.kobe-asahihall.jp/>
※神戸朝日ホールでの窓口販売はございません

■ フェスティバルホール チケットセンター
TEL:06-6231-2221(10:00-18:00)
※窓口販売は11/10(日)以降残席があった場合のみ

■ チケットぴあ(Pコード:530-143)
<https://w.pia.jp/t/hiruagarirakugokai/>

■ ローソンチケット(Lコード52230)
<https://l-tike.com/search/?lcd=52230>

■ イープラス
<https://eplus.jp/kobe-rakugokai/>

■ 神戸国際会館プレイガイド(火曜定休)
TEL:078-230-3300
(10:00-18:00/12:00-13:00休業)



主催:神戸朝日ホール/制作協力:米朝事務所
※未就学児の入場はご遠慮ください ※写真撮影・録音・録画禁止

神戸朝日ホール
ホームページ



桂ざこば一門 ひろば・ちょうば・そうば 三人襲名 桂力造 桂米之助 桂惣兵衛 名跡のこと

力造・米之助・惣兵衛関連系図

ひろば改メ二代目桂力造

初代桂力造のこと

桂を名乗る落語家の始祖初代桂文治（安永3(1774)年～文化13(1816)年）の高弟。文治の芸脈は現代に受け継がれ、多くの門人がいる中で「漸に妙を得たる大人なり。五人供甲乙なし」と伝わる5人の高弟のうち、ことに桂生瀬と桂力造は、重鎮であったようである。

天王寺区餌差町の寺院に、拍子木の形を模った初代桂文治の供養墓があり、拍子木の一片に「桂文治墓」と刻まれ、もう一片には「門弟 桂力造 桂生瀬」と刻まれていることから、当時の位付けが偲ばれる。この墓碑は明治に再建されたようで、元来は墓石に刻まれた「天保十歳己亥十一月」（1839年）に建立されたようだが、力造の活躍時期もその頃と推測される。（写真は平成2年に現地で筆者撮影。現状はかなり風化している。）



ちょうば改メ四代目桂米之助

桂米之助代々のこと

桂系統の落語家の芸名に「米」を用いるようになったのは、後の二代目桂文團治が、明治維新すぐの頃に米屋を始めるも、一転して芸人を志して初代文團治に入門し、前職に因み米團治を名乗ったのが始まりとされる。その後、米團治は二代目文團治を襲名し、弟子に米朝（初代）と名付け、その弟子に米之助（初代）が、さらにその弟子に米之助（二代目）が受け継がれる。

「代書屋」の作者としても知られる、後の四代目米團治である。しかし昭和になると徐々に上方落語は衰退しはじめ、危機感を持った五代目笑福亭松鶴とともに、上方落語の復興活動に尽力する。

戦後もその活動は続き、米團治のもとに入門した若者が、三代目米之助（写真）と三代目米朝であった。米之助は交通局勤めをしながらの落語修業ではあったが、次の世代への上方落語の継承の点で大きな役割を果たし、後輩から慕われ、上方落語の生き字引的存在であった。（写真は米朝事務所提供）



そうば改メ二代目桂惣兵衛

初代桂惣兵衛のこと

初代桂文治（安永3(1774)年～文化13(1816)年）の本名を今回は芸名として襲名する。明治維新の戸籍制度の発布により、初代桂文枝は桂文枝を本名として申請し、芸名＝本名となったが、それまでの本名（通称）は藤兵衛と言ひ、門弟に桂藤兵衛を名乗る者が生まれて、芸名として受け継がれている例がある。

桂を名乗る落語家の元祖である初代桂文治は、大阪西成郡柴島生まれ。通称を惣兵衛（伊丹屋惣兵衛が本名とされる）または総兵衛ともいう。寛政年間(1789～1801年)中頃に職業噺家となって桂文治と名乗り、坐摩神社境内に漸小屋をつくり定席興行を始めた。（画像は筆者蔵「大寄噺尻馬 巻一」より）

